



でんえい会誌 第28号

名古屋工業大学電気系同窓会誌

<http://www.denei.jp/>



＜古びた掛け軸＞

国立大学法人名古屋工業大学学長 木下 隆利

新型コロナウイルス感染拡大防止対策の柱として全学的に導入したオンデマンド型授業の立ち上げ・実施において、電影会所属の先生方には並々ならぬご尽力を賜りました。貴会誌への寄稿に際し、心から御礼申し上げます。今回の経験を基に今後の授業形態の在り方を検討しつつも、感染拡大がいち早く収束することを祈るばかりです。

さて、コロナがもたらす「新たな日常」が、社会のデジタル化を一層加速すると言われていています。「デジタル社会とは」の検索結果の多くは、この変化を明るく健全な社会に繋げていくべきだとしています。その実像は見えてきません。一方、倒産・解雇や生活困窮者の急増も連日報道されています。コロナが加速する社会の変革と混迷を背景に、最近感じていることの一端をご紹介します。

2本の列車が同じ方向に進んでいて、どちらかに自分が乗っているとしましょう。速度は異なる場合が多く、一瞬、隣の列車は逆方向に進んでいるかのようにも見えてしましますが、背景との対比により、この種の錯覚を避けることができます。人と人の場合はどうでしょう。目的は同じでも、それぞれの個性に差異があるので、自身の目線に頼ると、隣人が同じ方向に進んでいないのではと疑ってしまうことがあります。些細な事だとして摺合せを怠ると不信感は深まるばかり。そこで、この場合も背景になるものとして、例えば、隣人を取り巻く周囲の視点に立ってみる。運よく、自身と隣人を超えて客観的に把握することができれば、無用な錯覚から逃れ、安堵を携えて目的に進むことができるのです。ここで問題は、この客観的視点の大切さがスッと入るのは、はたしてどの世代迄かと言うことです。

次に中国の逸話だとして友人から聞いた話です。旅人が小さな町を通りかかると、お祭りの最中で露店が並んでいました。骨董品を売る店を覗くと、一つの掛け軸が目に残りました。下方でカエルがハエを狙っています。その上にヘビ、ヘビ食い鳥、虎が連なってそれぞれ下位の獲物を狙っている構図です。これを見た瞬間、旅人は思わず頭上を仰いだのです。我が身に置き換える客観力の大切さが伝わってきます。

30年程前は「大げさに言うと、コペルニクスの転回だね」のように太陽系の客観視等へと話が広がったものです。ところが最近の若い人には、この手の話はウザいようで、反応が薄いように見えます。「そこまで考えないと人は生きていけないのでしょうか？」に出会うことさえあるのです。しかしながら、客観力の放棄とも取れる言動に出会う度に、「最近の若者は....」では片付けることができない何かを感じるのです。

歴史学者のユヴァル・ノア・ハラリ氏の予見によれば、遠くない将来、これまで人類が経験したことのない全く新たな社会が到来するとされています。過去の経験や価値観など通用しない社会です。若い世代はこれを直感し、既存の価値観など耳を傾けないのでしょうか？客観力の劣化は劇的な変革社会到来にとって必然なののでしょうか？

とは疑うものの、古びた掛け軸は、懲りずに今日も錯覚の構図を解き明かし、客観力の大切さを語りかけています。何故なら、崇高で深遠な「電光影裡斬春風」の如く、現代の天才の予見をも超えて、永遠に生き残る本質があることを信じているから。

＜コロナ禍における授業・学生実験状況＞

電気・機械工学教育類 榊原久二男

(電気電子工学分野 教務委員)

COVID-19 の感染拡大と、緊急事態宣言の発令や解除の繰り返しにより、2020 年度の大学運営全体に影響が及びました。授業や学生実験も、その都度、対応に迫られました。2020 年度の状況について紹介します。

1. 授業での対応

2020 年 3 月の感染拡大の状況により、4 月は原則として大学が閉鎖になりました。入学式も新入生ガイダンスもすべて中止となり、研究室運営はオンラインで、授業の開始もいったん延期となりました。授業は 7 月から、オンラインでのオンデマンド授業で開始することになりました。リアルタイムでは、学生の通信環境によって、受講状況に個人差が生じることが懸念されるためです。履修登録している学生だけが各授業にアクセスできる Moodle というウェブシステムを活用し、各授業を担当している教員が準備した動画を配信しました。

動画の作成方法や、配信方法については、情報工学教育類の教員を中心に組織されたオンデマンド教育推進部会が、詳細でわかりやすいマニュアルを作成し、パワーポイントの動画作成方法から講義室でのビデオ撮影まで、様々な選択肢がとれるように準備されました。

最大の問題は、成績の評価方法でした。中間試験も期末試験も、講義室での対面による実施が許可されなかったため、レポート提出による評価となりました。しかしレポートは、学生同士で相談し合ったり見せ合ったりできることが前提となるため、学生個別の理解度を評価することが難しくなります。できるだけ精度良く評価するために、オンラインでカメラに写して試験をする方法、問題を公開する時間と提出期限の時間を決めて試験をする方法など、様々な方法を工夫して評価する教員もいました。この問題の解決は難しいため、後期は、授業は引き続きオンラインですが、試験は対面での実施が許可され、多くの教員が対面で試験を実施しました。

オンラインで授業を進める上で懸念していたのは、

友達や同級生など、学生同士で会う機会がなくなることにより、互いの情報交換や交友活動が少なくなり、孤立してしまう学生が生じてしまう問題です。

特に 1 年生は、入学してすぐにこのような状況になってしまったため、同級生の顔すら知らない学生が多いと思われます。この問題を少しでも緩和する施策として、電気電子工学分野では、1 年生をグループに分けて、Teams を用いたオンラインの交流会を 9 月に実施しました。学生どうして情報交換をしたり、連絡先を交換したりするなど、一定の効果があったと思います。

2. 学生実験での対応

実験は、実際に機器を操作してデータを取得する作業が必要であることから、感染防止対策を十分に採った上で、対面での実施も許可されました。これに伴い、一部のテーマで、7 月から対面実施で開始しましたが、2 週間ほど進んだところで緊急事態宣言が発令されたため、すべての実験がオンラインでの実施となりました。

オンラインでの学生実験は非常に難しく、教員ごとに様々な工夫をしました。1 つのやり方としては、教員の実験操作を映した動画をオンデマンド配信し、教員が収集したデータを学生へ提供して、データ処理とレポート作成を課す方法です。学生が自分でデータ処理をするように、教員の方で複数回のデータを取って、学生ごとに異なるデータを提供するなど、教員ごとに工夫しました。この方法では、実験の本来の目的の達成が難しいため、後期はすべて対面で行いました。このような実施方法は、全国の大学で共通の課題となり、電気系教員協議会や、学会の研究会等で議論されています。

3. 2020 年度の総括と 2021 年度の運営

動画では学生の表情が見えないので、理解の度合いが感じ取れずに授業をせざるを得ません。また、雑談や例え話もしにくいので、学生の理解や興味を促せるか心配でした。9 月に、チューター指導をしている学生と修学指導の面談をして、前期の授業と理解がどうであったか聞き取りをしたところ、意外にも、オンデマンド動画配信方式は理解しやすいというものでした。自分の聞きたい時間に聞けること、

また、聞き逃したことを、もう一度聞き直しができることがとても良いという意見が多くありました。1年生は、友達と会う機会を作るのが重要ですが、2、3年生は、会えないデメリットよりも、動画配信のメリットが大きいようでした。

2021 年度前期は、席の間隔を広くとるために受講学生を 2 グループに分け、対面とオンデマンドを隔週で交互に実施することになりました。後期は対面での実施の予定です。2020 年度は初めての経験で、いろいろな問題が生じましたが、一方で、今回の経験で新しいスキルを身につけました。効果的なやり方は、今後、活用できればと思います。

＜COVID-19 対応を振り返る＞

情報工学教育類 本谷秀堅

2020 年度の授業について、本学が Covid-19 対策を本格的に講じ始めたのは 2020 年 3 月の中旬でした。全ての授業をオンライン化しなければならないとして、そのための組織は本学には（もちろん）ありませんでした。オンライン推進部会を正式に設置しつつ、動画の配信方法を定め、教員には動画作成マニュアルを配布し、学生に動画視聴の方法を通知したのは 4 月の下旬になってからでした。

動画の配信方法には、オンデマンド形式を採用しました。つまり、教員は動画の教材を毎回作成して公開し、学生はクリックすることで教材を視聴します。例年どおりに教員が授業を実施し、その様子を実時間で配信する方法は採用しませんでした。当時、学生のアクセスが授業の実時間配信の始まる時刻に集中し、通信が停まる事故が度々報じられていたので、これを回避することも目的の一つでした。おかげで本学においては、オンライン授業に関する大規模な通信事故は発生していません。

本学が恵まれていたのは、オンデマンド授業に利用出来るプラットフォームを、情報基盤センターが既に用意してくれていたことでした。Moodle という e-ラーニング用のプラットフォームが導入されていたので、全ての学生は、まず Moodle の web ページにアクセスすることで目的とする動画授業を受けるこ

とが出来ました。例えば Zoom を使って授業ごとに毎回異なるリンクをクリックしなければいけない状況と比べると、その有り難みが伝わると思います。動画は Moodle を経由してマイクロソフト社の Teams や Stream を使って配信しました。これらのプラットフォームも導入済みだったため、例えば学生の動画ファイルへのアクセス履歴を管理したり、無断ダウンロードを抑制したりすることが可能となりました。2020 年度の 1 年間に教員が公開した動画ファイルの総数は約 24,000、その総容量は約 8,600G でした。

本学の教員は、ひとりあたり、前期と後期それぞれで平均 2.5 科目の授業を担当しています。教員へのアンケートによると、それぞれの科目で毎回の授業用の動画ファイルを作るのに、約 10 時間をかけていました。この時間数は私の経験とも一致します。ひとり 2.5 科目ですから、本学の全ての教員が、平均毎週 25 時間を教材作成に費やしたことになります。週 40 時間勤務だとすると、半分以上の割合です。職場で独りマイクに向かってしゃべりながら教材を作る作業は、決して楽しいものではありませんでした。

教員だけではなく、学生にとっても全ての授業がオンライン化されるのは初めてのことでした。学生へのアンケートによると、オンライン授業に対する賛否は両極に二分されます。学年が上がるにつれて賛とする好意的な意見が増えて、大学院生では好意的な意見が支配的です。授業動画を好きなタイミングで視聴できることや、分からない部分を繰り返し視聴出来ること（興味の薄いところは高速で飛ばせること）がその理由です。一方、低学年では旧来の対面式の授業を望む声が多数です。特に新 1 年生で対面式を望む声は切実です。彼ら/彼女らは、せっかく大学に入学したにも関わらず、本学キャンパスに来た回数も少なく、サークル活動や同期入学生との交流も薄く、友人を作る機会を奪われたままです。自宅や下宿先に籠もって一人で授業動画を毎日見続けることは、それほど容易ではありません。オンライン授業による教育の効果はこれから検証しなければならないのですが、繰り返しの視聴が出来ることなどのメリットと、例年より強く自分を律する力が学生に問われるデメリットを勘案すると、理解度の

両極化が進む傾向が今後明らかになっても意外ではありません。いま大学には、特に低学年の学生に、学生間の交流の機会を与えることが切実に求められています。授業だけではなく、学生に楽しむことの出来る場を提供することは大学の重要な役割です。

大学が2020年に大きく変化しました。後戻りの出来ない変化です。例えば、動画教材だけで成立する授業では、受講人数が教室の座席数に制限されなくなります。大学外の、例えば企業の方々に授業を展開する素地が出来たのかもしれませんが。仮に大学間で動画教材を共有することを考えると、キャンパスの意味にも再考を迫られます。2020年の1年間で、本学はほぼ全ての授業の動画教材を揃えることが出来ました。この利活用を検討するのも今後の課題です。教育用の資産として貴重ですし、Covid-19に本学がきちんと対応したからこそ獲得出来た資産です。有意義に展開出来ればと思います。

＜名古屋工業大学 28 年間の思い出＞

情報工学教育類 新谷 虎松

私の名古屋工業大学での略歴は、前職の富士通株式会社国際情報社会科学研究所を経て、平成5年4月に名古屋工業大学助教授、平成11年4月に名古屋工業大学教授に就任し、令和3年3月に名古屋工業大学を定年にて退職するまで28年間、情報工学の教育・研究に努めています。平成15年4月に、知能情報システム学科学科長に就任し、次年度の学科再編成に向けて、新たな情報工学科の組織構成やカリキュラムの策定を中心になって取り組みました。この間の会議などはおおいに白熱し、たいへん苦勞しましたが、教員のみなさんのご協力で、すばらしい情報工学科がスタートしたかと思います。研究指導した学生数は、博士後期が10人、博士前期が95人、学部が207人になります。研究室のホームページにある名前リストを見ると、すばらしいことに、みなさんの顔と研究発表が鮮烈に思いだすことができ、当時の研究指導で苦勞したことやゼミ合宿などの楽しい思い出が次々に実感できます。

富士通株式会社国際情報社会科学研究所での 11

年間は、当時の通商産業省（現経済産業省）所管の国家プロジェクトである新世代コンピュータ技術開発機構 ICOT のワーキンググループの委員および研究者として参画し、論理型言語による知識情報処理の研究開発を行っています。ICOT では、世界中から著名な研究者が数多く招聘され、日々の研究業務や海外からの研究者との日頃のお付き合いも英語づけで、たいへん苦勞しましたが、とても楽しく充実していたかと思います。そこで、研究室の学生にも英語論文の輪講や国際会議に積極的にチャレンジしてもらい、苦勞させましたが、結果的には充実した思い出になっていることを願うばかりです。

名古屋工業大学に着任してからの約10年間は、人工知能の分野で当時に注目されてきたマルチエージェントシステムをグループ意思決定支援システムに導入することにより、知的で効果的なグループの意思決定の研究を実施しました。特に、平成11年9月からの米国カーネギーメロン大学での10ヶ月間の在外研究では、米国でも最新のテーマであったマルチエージェントの交渉モデルに関しての研究はたいへん有意義でありました。すばらしいことに、一連の成果は、人工知能分野の世界最高峰の国際会議(IJCAI、AAAI、ECAIなど)での発表や論文誌論文にまとめることができました。平成16年4月の国立大学法人化と経済産業省による「大学発ベンチャー1000社計画」を契機に、平成16年7月に大学発ベンチャー(株式会社ウィズダムウェブ)を起業し、知能化技術を応用した次世代のウェブソリューションを実現するために、米国でも最新のテーマであったウェブインテリジェンスに関して実用的研究を行い、主要な研究テーマとなりました。実装研究の業績として、情報処理推進機構 IPA の未踏ソフトウェア創造事業で、「知恵」と呼ぶサービスを共有する知的ウェブシステムを実装し、その高度な実装技術と卓越した有用性が高く評価され、平成17年5月にスーパークリエイタに認定されました。近年では、地方都市の貧弱な通信環境として、モバイルルーターにつながったタブレット型端末 iPad を利用した遠隔老人介護支援システムを実装し、実際の遠隔老人介護の現場における約5年間の実運用を実

施しました。遠隔地に在住する高齢者の独居老人（80歳代）に負荷をかけずに iPad 利用してもらうことは、それだけでも非常困難を極めるものであり、多くの課題が明らかになりました。独居老人から苦勞して指で書いたメッセージが届くたびに、たいへん嬉しく、感激しました。また、平成16年から同27年まで毎年、研究室のみなさんとは、学会発表以外に、産学連携・技術移転を目指してイノベーション・ジャパンなどの20件の大型展示会への出展にチャレンジしました。ここでは、学会発表とは異なり、パンフレットなどビジネスの視点からの準備が必須となり、多くの知見と経験が得られました。有意義で楽しい思い出となりました。学会発表での特筆すべき点として、研究指導の学生が優れた研究発表や業績として91件の受賞をうけています。

昨年からのコロナ禍で対面講義もなく学会もオンライン会議のみであり、退職の最終年度として非常に残念な思いですが、以上のすばらしく多くの業績を残すことができたことは、ひとえに名古屋工業大学教職員の皆様のご支援と OB/OG 方々のご努力の賜であると深く感謝いたします。最後に名古屋工業大学のさらなる発展、教職員の皆様、OB/OG 方々の益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

＜ 2020 年度の就職状況について ＞

電気電子工学教育類 就職担当 ニラウラ マダン

2021 年 3 月卒業の電気電子分野関連の研究室の学生の就職担当を務めさせていただきました。担当した学生は、学部生 110 名、第二部学生は 2 名、博士前期（修士）課程学生 119 名（電気・機械工学専攻：107 名、情報工学専攻：8 名、物理工学専攻：4 名）、博士後期課程学生 2 名でした。修士課程学生のうち 4 名が博士後期課程に進学し、114 名は一般企業に就職希望でした。また、学部生では 82 名（約 75%）が大学院に進学し、28 名が就職希望でした。そのうち 1 名は公務員で、残りは一般企業でした。

求人企業・業種に関しては、例年同様、自動車関連、

電機、電力、通信、金属、化学、建築、さらに材料・素材・インフラなど幅広い業界の約 520 社から求人をいただきました。その中で、11 月から 2 月を中心に約 140 社の企業と面談を行いました。多くの企業は電気電子工学分野を学んだ学生採用の強い希望していると共に、女子学生や留学生に対する積極的に採用姿勢を感じました。また、企業面談時に東海地区に限らず、関東や関西からも多数の企業の方々にご来訪いただきました。

電気電子所属学生に対する進路指導は、1 月の第 1 回進路指導ガイダンス、2 月の電影会主催の卒業生と学生との懇談会、さらに 3 月の就職担当と学生との就職面談、本学主催企業セミナーを通じて行われます。その他にも卒業生の方々による OB 訪問や会社説明会などにより学生に多くの企業・業種情報を提供されます。しかし、本年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、進路指導ガイダンスや就職面談を除き、多くのイベントが中止され、就活生にとっては例年と異なる状況の中の活動になりました。

選考スケジュールやその過程に関しては、前年までと同様、会社説明会は 3 月 1 日解禁、選考は 6 月 1 日から開始でした。しかし、実際には早い段階で長期又は短期インターンシップに参加した学生に対して採用活動を行う企業、や OB 面談という形で事前選考が行われているケースもみられました。企業からの求人の形態は、大きく学校推薦と自由応募がありますが、学校推薦希望者に対してジョブマッチング制度を利用して選考実施する企業が多かったです。

本年度就職希望の学生につきましては、昨年 3 月末や 4 月早々に内々定を決めてくる学生も多く、また、今年 1 月末段階では就職希望者ほとんどの進路を確定することができました。進路選択に関しては、連年通り自動車関連、電機や電力などの大企業を選ぶ学生の割合が多かったです。

最後になりますが、ご支援を頂きました本学卒業生の方々に始めとするお世話になった皆様に厚く御礼申し上げます。今後とも就職活動に対して、なにとぞご支援をいただきますようお願いいたします。

情報工学教育類 就職担当 津邑公曉

2020 年度の情報系就職担当として、布目敏郎准教授とともに、情報系の修士学生・学部学生の就職活動のサポートをさせていただきました。2020 年度の進路指導・就職指導は、コロナ禍の影響によりさまざまな影響を受け、企業の皆様とともにいろいろと手探りですすめた 1 年間でした。

まず、情報工学科・情報工学専攻を中心とした情報系の進路指導対象学生は、一部学部生 151 名（うち就職希望 29 名）、二部学部生 3 名（うち就職希望 2 名）、大学院学生（前・後期）128 名（うち就職希望 117 名）と、例年とほぼ同数でした。本学情報系学生に対していただいた求人数もほぼ例年とかわらず、全 361 社から求人票をご送付いただき、うち今年度からの新規を含めた 300 社から推薦枠をいただきました。

学生に対する進路指導については、求人・就職活動時期がどんどん早期化している昨今の情勢を鑑み、前年度よりも 1 ヶ月ほど早めに開始しました。12 月中旬に第 1 回、2 月上旬に第 2 回進路指導説明会を開催し、ウェブを用いた希望調査ののち 3 月上旬には全学生との面談を開始しました。ただ、このように例年よりもスケジュールを前倒したにもかかわらず、全学生の進路決定にかかる期間は例年より少し長期化した印象があります。より具体的には、活動期間の長さという面において、コロナ禍が本格化する前に実質的な内定をいただいた学生と、それ以降に選考が本格化した学生との 2 極化を感じました。企業研究セミナーや、例年電影会に主催いただいている「卒業生と学生の懇談会」も、やむなく中止となるなど、学生は例年にくらべ企業研究にも苦労したであろうと思います。また企業の皆様にも、面接等選考の実施方法やスケジュールに苦慮されている様子が窺えました。それでも、誰もが経験したことがない病禍により通常業務の改革も求められる中において、企業の皆様にはさまざまな工夫とご尽力により、例年と同等な選考を学生に対して実施いただけたこと、大変ありがたく思います。おかげさまで

最終的には、進路決定率はほぼ 100%に近い値を今年も達成できました。

大学での進路指導も実施方法の変更を避けられず、8 月の第 3 回進路指導説明会は、本学オンライン授業の仕組みを活用して動画配信にて実施しました。また、学生との個別面談も、コロナ禍が本格化した時期からはビデオ会議システムを用いて行いました。就職担当をお手伝いいただいている事務員の方の業務についても、従来は紙のファイルで管理していた求人票や企業アンケートの電子化などを積極的に進めた結果、事務員の方に各日で在宅勤務いただくを得ない状況の中でもスムーズな情報共有ができ、むしろ従来よりも作業が効率化する部分があるなどの発見もありました。

進路指導は次年度の就職担当にバトンタッチいたしますが、コロナ禍の出口が未だ杳としている中、「新しい就職指導様式」を企業の皆様とも手を取り合いながら模索して行けるよう、今年度に得た知見をしっかりと引き継ぎまして、学生が安心して就職活動に臨める環境をひきつづき維持してゆければと思います。

末筆ながら、ご支援をいただきました本学卒業生の方々をはじめとするお世話になった皆様に厚く御礼を申し上げます。今後とも変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

2020 年度事業報告

1. 会合

○電影会総会	中止	
○第 1 回役員会	2020.10.28	オンライン
○学内幹事会	2020.12.2	オンライン
○第 2 回役員会	2021.2.19	オンライン
○幹事会	2021.3.31	オンライン

2. 事業

○学生向け講演会

(1) 2020.11.24

三田祐子 氏、高野仁美 氏、林加代子 氏(日本ファシリテーション協会 中部支部) 題目:アイスブレイクのための 4 象限自己紹介

(2) 2021.2.1

橋本英樹 氏(ごきそ技術士会)、鈴木克彦 氏(J57)(ごきそ技術士会)

○新入生向け電影会案内:二部学生にのみ実施
一部学生、編転入生に対しては、来年度実施。

○卒業祝賀会(オンライン)2021.3.26

○電影会会誌発行(第 28 号)2020.5

○大学行事補助 0 件

○電影会賞贈呈 2020.3.26

○卒業生と学生の懇談会 2020.2.26(オンライン)

2020 年度決算

科 目	収 入	科 目	支 出
繰 越 金	4,068,781	通 信 費	706,016
入 会 金	15,000	印 刷 費	620,644
工業会より	0	事 務 費	0
利 息	8	会 合 費	0
雑 収 入	0	学生行事補助	338,613
寄 付 金	866,775	大学行事補助	0
		総 会 補 助	0
		支 部 活 動 費	50,000
		インターネット経費	9,660
		雑 費	0
		人 件 費	300,000
		繰 越 金	2,925,631
合 計	4,950,564	合 計	4,950,564

2021 年度事業計画 (案)

1. 会合

- 電影会総会 ○役員会
- 幹事会 ○学内幹事会

2. 事業

- 新入生向け電影会案内 ○学生向け講演会
- 電影会会誌発行 ○卒業祝賀会 ○電影会賞
- 大学行事への補助 ○卒業生と学生との懇談会
- 名古屋工業会との連携

2021 年度予算 (案)

科 目	収 入	科 目	支 出
繰 越 金	2,925,631	通 信 費	750,000
入 会 金	2,705,000	印 刷 費	900,000
工業会より	70,000	事 務 費	10,000
利 息	100	会 合 費	350,000
雑 収 入	800,000	学生行事補助	680,000
寄 付 金	1,100,000	大学行事補助	200,000
		総 会 補 助	40,000
		支 部 活 動 費	150,000
		インターネット経費	10,000
		雑 費	10,000
		人 件 費	320,000
		繰 越 金	4,180,731
合 計	7,600,731	合 計	7,600,731

2021 年度役員(案)

名 誉 会 長	井上丈太郎 (E13)
	犬飼英吉 (E28)
	神谷昌宏 (E36)
	中村光一 (E41)
	北村正 (Es48)
会 長	石橋豊 (J56)
副 会 長	川越英二 (E47) 原田幹寿 (E53)
	安藤幹人 (E57) 犬塚信博 (J62)
理 事	岩塚真之 (E56) 山中清 (J 52)
	森田良文 (E62) 三宅正人 (E60)
	川村信之 (E53)
監 事	市原正樹 (E48)
庶 務 理 事	廣瀬光利 (E50) 後藤富朗 (EJh9)
会 計 理 事	酒井公孝 (J54) 岸直希 (EJh12)
編 集 理 事	佐藤徳孝 (App2011)
	佐久間拓人 (CSh24)
庶 務 補 佐	青木睦 (EJh4)
会 計 補 佐	大塚孝信 (CSh28)

学位取得者一覧

電気・機械工学専攻

2021 年 3 月 課程修了者

AHMED SHAWKY MOHAMED HUSSEIN	Single-Stage Three-Phase Differential Inverter Utilizing Single-Ended Primary-Inductor Converters	竹下 隆晴
NGUYEN THANH TUAN	Study on Wideband Planar Feeding Circuits for Multibeam Array Antennas in Millimeter-Wave Band	榊原 久二 男
竹中 清人	電気設備機器火災の現象解明と火災兆候検出手法に関する研究	水野 幸男
CHEN MINGHUI	A Study on Common-mode Noise and Artefact Solution for Noninvasive Biopotential Acquisition Circuits	王 建青
林 裕二	マトリックスコンバータを用いた非接触給電システムの制御技術に関する研究	竹下 隆晴

情報工学専攻

2021 年 3 月 課程修了者

氏 名	論 文 題 目	主査教員名
RICARDO MORAES MUNIZ DA SILVA	Accuracy Improvement of Temporal Series Prediction by Analysis of Memory Dependency Through Linear Regression Functions	本谷 秀堅
山本 貴史	Research Platform for Mobile Manipulators in Symbiosis with Humans	加藤 昇平
島 孔介	加速度データを用いた人の動作への特徴付けと身体的特徴との関係分析	犬塚 信博

創成シミュレーション工学

年 3 月 論文申請者

鈴木 真矢	Statistical inference for feature selection algorithms and how to construct robust learning models s	南角 吉彦
-------	--	-------

入試・就職状況

昨年度の入試状況と就職状況は以下の通りです。

2021 年度入学者選抜状況

電気・機械工学科（一部）

	推薦	前期日程	後期日程
募集人員	30	105	65
志願者数	83	349	482
受験者数	83	335	211
合格者数	30	105	87

情報工学科（一部）

	推薦	前期日程	後期日程
募集人員	15	85	45
志願者数	21	306	366
受験者数	21	289	188
合格者数	14	88	56

第一部私費外国人留学生特別選抜

	電気・機械工学科	情報工学科
募集人員	若干名	若干名
志願者数	29	27
受験者数	28	20
合格者数	6	6

編入学・転入学（一部:3 年）

() は内数で転入学数を表す

	電気・機械工学科 (電気電子分野)	情報工学科
募集人員	若干名	若干名
志願者数	24(0)	14(1)
受験者数	19(0)	12(1)
合格者数	7(0)	5(1)

電気情報工学科（二部:一般選抜前期日程）

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
5	37	34	5

大学院・電気・機械工学専攻(博士前期課程)

	推薦	一般選抜	私費留学生
募集人員	54	96	若干名
志願者数	57	146	19
受験者数	56	143	16
合格者数	54	109	6

大学院・情報工学専攻(博士前期課程)

	推薦	一般選抜	私費留学生
募集人員	31	71	若干名
志願者数	29	99	21
受験者数	28	97	20
合格者数	28	77	7

大学院・電気・機械工学専攻(博士後期1次募集)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
9	6	6	6

大学院・情報工学専攻(博士後期1次募集)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
7	3	3	3

大学院・国際連携情報学専攻(博士後期)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
2	0	0	0

大学院・電気・機械工学専攻(博士後期2次募集)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
若干名	10	10	10

大学院・情報工学専攻(博士後期2次募集)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
若干名	4	4	3

2020年度卒業生就職状況

	電気電子分野			情報工学科		
	大学院※	一部	二部	大学院※	一部	二部
卒業生	107	103	2	121	111	1
進学者	4	73	0	3	86	0
研究生	0	0	0	0	1	0
一般企業	101	28	1	110	22	1
公務員	1	0	0	0	0	0
教員	0	0	0	0	0	0
帰国(留学生)	0	0	0	0	0	0
休学他	3	5	0	8	7	0
未定者	1	2	1	6	2	0

電影会賞

この賞は、電影会準会員の向学心向上と優秀な学生の育成を目的とし、卓越した成績で卒業し、今後の科学技術の発展に貢献すると思われる有望な学生を表彰することを目的としています。2020年度の受賞者は以下の方です。

氏名, 所属
新實 優輝, 第一部電気・機械工学科
片田 創, 第一部電気・機械工学科
高木 宏彰, 第一部電気・機械工学科
井上 佳彦, 第一部電気・機械工学科
佐伯 英寿, 第一部電気・機械工学科
二村 洋輝, 第一部電気・機械工学科
前島 涼人, 第一部電気・機械工学科
山本 寛大, 第二部電気情報工学科

氏名, 所属
湯浅 範子, 第一部情報工学科
天野 雅人, 第一部情報工学科
山本 和諒, 第一部情報工学科
安藤 祥太, 第一部情報工学科
杉本 竣, 第一部情報工学科
杉山 一弥, 第一部情報工学科
井上 結加里, 第一部情報工学科

学生の表彰

紙面の都合上、受賞内容の詳細は省略させていただきます。

賞の名称, 氏名, 所属, 指導教員氏名
ITU AI/ML in 5G Challenge Global Round in Japan, Best Performance Award (2020.11), 中川慶郎, 電気・機械工学科, 安在大祐准教授
ITU AI/ML in 5G Challenge Global Round in Japan, Best Performance Award (2020.11), 佐伯英寿, 電気・機械工学科, 安在大祐准教授
ITU AI/ML in 5G Challenge Global Round in Japan, Best Performance Award (2020.11), 石川靖人, 電気・機械工学科, 安在大祐准教授
学術活動部門 副学長表彰(2021.3.8), 石川哲, 情報工学専攻, 石橋豊教授
学術活動部門 副学長表彰(2021.3.8), 金石和也, 情報工学専攻, 石橋豊教授
WSCE 2020 (World Symposium on Communication Engineering) Best Student Paper Award(2020.10.11), Nuzrath Hameedha, 情報工学専攻, 石橋豊教授
WSCE 2020 (World Symposium on Communication Engineering) Best Oral Presentation Award(2020.10.11), Nuzrath Hameedha, 情報工学専攻, 石橋豊教授

IEEE ICCE-TW 2020 (International Conference on Consumer Electronics - Taiwan) Best Paper Award (2020.9), Chun Lu, 情報工学専攻プログラム, 石橋豊教授
電気関係学会東海支部連合大会 電気学会論文発表賞 B 賞(2020.10), 秋田光養, 電気・機械工学専攻, 岩崎誠教授
ICETC2020 Best Short Paper Award (2020.12), 鞠山匠汰, 電気・機械工学専攻, 榊原久二男教授
ICETC2020 Student Presentation Award (2020.12), 竹嶋大智, 工学専攻 電気・機械工学系プログラム, 榊原久二男教授
名古屋工業大学学生研究奨励 副学長賞 (2020.2), 北河茜, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
名古屋工業大学学生研究奨励 副学長賞 (2020.2), 泉春乃, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
名古屋工業大学学生研究奨励 副学長賞 (2020.2), 伊原滉也, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
第 82 回情報処理学会全国大会学生奨励賞 (2020.3), 北河茜, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
第 82 回情報処理学会全国大会学生奨励賞 (2020.3), 福田和彰, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
第 82 回情報処理学会全国大会学生奨励賞 (2020.3), 加賀翔太郎, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
2020 年度回人工知能学会全国大会 (第 34 回) 学生奨励賞 (2020.7), 花井俊哉, 工学専攻情報工学系プログラム, 加藤昇平教授
情報科学フロンティア研究院シンポジウム優秀ポスター発表賞 (2020.11), 丹羽貴敏, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
情報科学フロンティア研究院シンポジウム優秀ポスター発表賞 (2020.11), 石津谷駿汰, 情報工学科, 加藤昇平教授
情報科学フロンティア研究院シンポジウム優秀ポスター発表賞 (2020.11), 古川翔也, 創造工学教育課程, 加藤昇平教授
情報科学フロンティア研究院シンポジウム優秀ポスター発表賞 (2020.11), 伊原滉也, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
第 18 回情報学ワークショップ (WiNF2020) 奨励賞 (2020.11), 古川翔也, 創造工学教育課程, 加藤昇平教授
第 18 回情報学ワークショップ (WiNF2020) 奨励賞 (2020.11), 鬼頭遼次, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
第 18 回情報学ワークショップ (WiNF2020) 奨励賞 (2020.11), 伊原滉也, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
第 18 回情報学ワークショップ (WiNF2020) 優秀賞 (2020.11), 花井俊哉, 工学専攻情報工学系プログラム, 加藤昇平教授
令和 2 年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会 IEEE 学生奨励賞 (2021.1), 渡邊南美, 創造工学教育課程, 加藤昇平教授
令和 2 年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会 IEEE 学生奨励賞 (2021.1), 古川翔也, 創造工学教育課程, 加藤昇平教授
令和 2 年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会 電気学会 B 賞 (2021.1), 伊藤有生, 情報工学科, 加藤昇平教授
名古屋工業大学学生研究奨励 学長賞 (2021.3), 伊原滉也, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
名古屋工業大学学生研究奨励 学長賞 (2021.3), 原田誠一, 工学専攻情報工学系プログラム, 加藤昇平教授
名古屋工業大学学生研究奨励 副学長賞 (2021.3), 丹羽貴敏, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
第 83 回情報処理学会全国大会学生奨励賞 (2021.3), 丹羽貴敏, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
第 83 回情報処理学会全国大会学生奨励賞 (2021.3), 坂口巧一, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
第 83 回情報処理学会全国大会学生奨励賞 (2021.3), 泉春乃, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
第 83 回情報処理学会全国大会学生奨励賞 (2021.3), 近藤新太郎, 情報工学科, 加藤昇平教授
IEEE 名古屋支部国際会議研究発表賞 (2020.4), 阿野漱太, 電気・機械工学専攻, 関健太准教授
第 63 回自動制御連合講演会優秀発表賞 (2020.11), 林賢志, 電気・機械工学専攻, 関健太准教授
WiNF2020 FRIIS 優秀発表賞(2020.11), 小林睦, 工学専攻情報工学系プログラムメディア情報分野, 南角吉彦准教授
WiNF2020 奨励賞(2020.11), 厚地俊哉, 工学専攻情報工学系プログラムメディア情報分野, 橋本佳准教授
電子情報通信学会 エレクトロニクスソサイエティ学生奨励賞 (2020.9), 中野裕貴, 工学専攻電気・機械工学系プログラム, 平田晃正教授
第 18 回情報工学ワークショップ(WiNF2020) 優秀賞 (2020.11), 高木博康, 情報工学専攻, 福嶋慶繁准教授
電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞 (2020.6), 田島寛士, 情報工学専攻, 福嶋慶繁准教授
精密工学会秋季大会学術講演会 ベストプレゼンテーション賞 (2020.9), 土屋光希, 電気・機械工学専攻, 前田佳弘准教授
電気学会メカトロニクス制御研究会 メカトロニクス制御技術委員会優秀論文発表賞 (2021.1), 田中直紀, 電気・機械工学専攻, 前田佳弘准教授
電気学会電力・エネルギー部門大会 発表奨励賞(2020.9), HUANG Yantao, 電気・機械工学専攻 安井晋示教授
電気学会東海支部研究フォーラム 優秀研究発表賞(2020.12), HUANG Yantao 電気・機械工学専攻 安井晋示教授
電気設備学会学生研究発表会 準優秀賞(2020.12), 三村文乃, 電気・機械工学専攻 安井晋示教授

電影会運営資金寄付者

以下の方々より寄付をいただきました。ご高配に厚く御礼申し上げます。なお、学科の略語の記載を省略し、卒業年のみ記載させて頂きましたので予めご了承ください。2021 年 2 月末までの寄付分を掲載しております。

昭 22	伊藤季彦 西川清司 村上庄之介 坪居好夫	昭 48	市原正樹 中島正敏 三木敏裕 米山高志 北村正 平尾篤 米谷忠俊
昭 23	中井二夫 牧野和正 大井一典 水谷末一	昭 49	緒方善郎 朝倉吉隆 藤澤篤史
昭 24	井上高明 右高泰	昭 50	浜岡重男 伊藤春彦 浅井良一 荻原義也 眞鍋和人
昭 25	泉館昭則 梶浦孝一 白井光雄 山田清次 安良城勝也 中村正夫	昭 51	吉村元 太田仁啓 恩地秀男 山平拓也
昭 26	原行一 兼子共明 加藤正昭 波多野寅英 川合茂樹	昭 52	宮瀬善行 高石由紀夫 内海和彦 宮脇誠 倉知喜久雄 磯村尚 山口好孝
昭 28	嶋田宏 杉岡太郎 犬飼英吉 山田速水	昭 53	後藤武志 明慶寧 小田啓雄 古田克
昭 29	井野鉄彦 都筑登 渡邊康男	昭 54	大前義信 竹田治徳 渡邊均 杉浦伸明 木村康則 大江準三 原信 片桐彰夫 吉田誠治
昭 30	小林任 内田忠良 浅野基明 青木茂 北野祐一	昭 55	岩崎政彦
昭 31	大嶋光朗 辻村尚明 神野茂	昭 56	石橋豊 浅羽哲朗 萩原秀和 嶋田宏
昭 32	森千鶴夫 水谷安郎 植田俊男 岡野修	昭 57	野口敏彦 安藤幹人 菊間信良 前川雅俊 谷本弘二 青柳昌宏 鈴木克彦
昭 33	藤田正浩 中谷恭朗 寺社下政美 荒井英二 松山幸夫 寺林康治 伊藤正秋 木村隆信 木村欽哉	昭 58	足立利浩
昭 34	中川脩 鈴木倭 安田敏活 草野洋 岡田明義 高島廣彦	昭 59	酒井泰誠
昭 35	中西和義 加藤昇 金子勝藏 大谷健嗣 後藤秋生 岡田昌孝 三浦允之 千種良夫 梅野正義 渥美一二 藺田耕一	昭 61	高石一慶 熊崎昭 塚田敏彦
昭 36	馬路才智 安藤元吉 西村秀夫 増田勝一 黒田和助 小田征一郎	昭 62	羽賀政雄 小栗宏次
昭 37	野田昭 早原悦朗 半田徹	昭 63	佐藤俊樹 猪島政之 鎌田和弘
昭 38	是木修一 八代弘 細江勇 中谷光男 田口守彦 小田切啓幸	平元	林敬 三浦篤志 林宏明 長友則生
昭 39	矢田公一 岡田守弘 内藤省三 石谷彰康 田村英也 近藤芳孝 近藤吉明 吉田嶽彦 下前哲夫	平 3	谷口一哉 福山光幸
昭 40	小澤容 大西旻 田島暁示 大隅東也 山本健美	平 4	野村尚史
昭 41	谷辰夫 八神正彦 中村光一 大場直之 丹下正彦 神本勝己	平 7	松井俊浩
昭 42	伊藤洋太郎 阿江勉 吉村洋典 水野重雄 宇佐美忠男 川島征一郎 青木猛 佐原定義 中山静夫 小島一男	平 8	成瀬尚史
昭 43	堀尾猛 田原基司 牧野正俊	平 10	布目敏郎
昭 44	柴田俊夫 川瀬正毅 菅野宗二 井上憲二 長見晃 片桐清志 木原清 佐藤恒夫 渡邊興司 村田扶美男	平 12	森下さと子 竹尾淳
昭 45	桶昭一 松崎敦志 稲垣和則 加藤友康	平 15	丹羽伸次郎 川原淳平
昭 46	高橋章 津田孝明	平 16	小松正幸 加藤政幸
昭 47	星野幸吉 山内一昭 川越英二 田島耕一 加藤元三郎	平 20	田中慎一郎 竹内一将 都築賢二
		平 21	布川智康 本種和弘
		平 22	浅田徳弘
		平 26	荒木千佳
		平 30	長尾英剛
		平 31	森永育宏
		令 2	北川峻也

学 科 近 況

◎ 学科役職(新年度の電影会関連教職員のみのみ)

2021 年度電気・機械工学教育類・専攻

教育類長/専攻長	佐野 明人 教授
副教育類長/副専攻長	森田 良文 教授

2021 年度情報工学教育類・専攻

教育類長/専攻長	片山 喜章 教授
副教育類長/専攻長	大園 忠親 教授
	内匠 逸 教授
	李 晃伸 教授

2021 年度就職担当

電気・機械工学教育類
情報工学教育類

平田 晃正 教授
大田 忠親 教授
白松 俊 教授

◎ 2020 年度退職教職員

情報工学教育類

新谷 虎松 教授
世木 博久 教授
伊藤 孝行 教授
泉 泰介 准教授
中村 剛士 准教授

◎ 2020 年度新任教職員

電気・機械工学教育類
情報工学教育類

矢野 佑典 助教
玉木 徹 教授
稲津 佑 助教

総 会 通 知

2021 年度の同窓会行事として、電影会総会を下記のように開催することと致しました。コロナ禍の状況を受けまして、今年度はオンラインにて開催させていただきます。是非ご出席下さいますようご案内申し上げます。

日 時: 2021年5月28日(金) 17時00分から18時30分まで

会 場: Zoom にて

会次第: 16時30分 Zoom 会場受付開始

17時00分 総会

17時30分 講演会

演題: 統計的アプローチに基づいた音声合成の最新動向

講師: 名古屋工業大学 教授 徳田 恵一氏(Es59)

◎ご出席の連絡は 2021 年 5 月 21 日(金)までに office@denei.jp まで電子メールにてご連絡下さいますようお願い申し上げます。

関西支部からのお知らせ

昨年はコロナ対策としてやむなく中止致しました。今年こそはと7月10日土曜日で計画していましたが、昨今の情勢では開催が困難と想定されます。

2年連続の中止は避けたいので、ウェブ総会も検討していますので、ご了承下さい。

ご意見ありましたら、以下のアドレスにお願い致します。
kansai@denei.jp

関西支部長 川越英二 E47

名古屋工業会総会のご案内

名古屋工業会 2021 年度定期総会及び会員総会が、2021 年 5 月 29 日(土)に開催されます。皆様奮ってご参加のほどよろしくお願い致します。

電影会寄付募集のお願い

現在、電影会は名工大へ入学時に皆様からお納めいただいた会費、並びに卒業された皆様からの寄付金によって運営されています。

でんえい会誌の発行やホームページによるサービスを始め、電影会の運営をスムーズに行うため、今後とも皆様からの寄付をお願いいたしたく存じます。よろしくお願い申し上げます。

尚、寄付をいただいた方は、次号にお名前を掲載させていただきます。

一口 : 2000 円

郵便振込先: 00860-9-19618 電影会

名古屋工業大学基金寄付募集のお願い

現在、名古屋工業大学は皆様からの寄附を募集しております。詳しくは名古屋工業大学基金のウェブサイト(<http://www.nitech.ac.jp/kikin/>)をご覧ください。

投稿記事の募集

でんえい会誌の記事を募集いたしますので、会員の皆様からの積極的なご投稿を電影会までお願いいたします。1 ページ約 1600 字です。

編 集 委 員 犬塚信博(J62) 佐藤徳孝(App2011)
後藤富朗(EJh9) 佐久間拓人(CSh24)
岸 直希(EJh12)

発 行 名古屋工業大学内電影会

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

後藤富朗 庶務理事

E-mail: office@denei.jp URL: <http://www.denei.jp/>

名簿充実にご協力をお願いします

現在、電影会は約 15,000 人の存命会員を擁しています。その中で電影会誌をお届けできているのは半数に過ぎず、あとの半数は消息不明となっています。わたしたちは、より多くの方々に電影会誌をお送りすることで、絆を強くし、多くの情報、質の高いサービスを名工大とともに提供して参りたいと考えています。そこで、名簿の信頼性向上と充実、消息不明数の縮減を進める必要があります。名簿上は消息不明の方も同級生との間で連絡可能であることが少なくありません。同級生の最新名簿をお持ちの方におかれては、是非、その名簿を電影会事務局に送って頂きたいようお願い申し上げます。まずは、ご一報ください。(meibo@denei.jp)